



消防学校 ニュース



令和5年2月号

指令センター員講習(第5回)

～指令センターこそ最前線～

令和5年1月17日(火)から1月20日(金)まで、「消防職員特別教育指令センター員講習」を実施し、県内消防本部(局)から16人の通信指令業務従事者が参加しました。

当講習は、通信指令業務に携わる職員が、議論を重ねる機会や通信指令業務に特化した専門的な教育を受ける機会がない現状を踏まえ、組織や地域の枠を越えて経験や先進的な取組に関する情報を共有し通信指令員の知識・技術の向上を図り、生命・身体・財産を守るという消防活動全般のレベル向上を目的としています。

今回で5回目を迎えた当講習ですが、これまでの受講生の声を反映して、昨年度から講習日数を3日間から4日間に拡大しました。また、今年度は要望が多かった模擬訓練の時間を拡充しました。

4日間という短い講習期間ですが、指令センター員として必要なスキル向上のために、多岐にわたる講義、多様な模擬訓練を実施しました。



システムダウン図上訓練



模擬訓練<通報者役>



模擬訓練<受信者役>



合同聴講の様子



受講生16名 + 担当教官2名

【担当教官コメント】

通信指令業務を担う皆さんは、消防の窓口“顔”であり、119番通報の受信、的確な聴取、速やかな指令、現場活動隊への情報提供や指示、命令を行う、まさに“消防のBRAIN(頭脳)”です。

「指令センター員の皆様こそ、最前線です！」ストレスも多い職務ですが、その分やりがいも多いはず。「現場じゃなくても、救える命がある!」、「指令センターだから、救える命がある!」

通信指令業務を皆さんで盛り上げていきましょう。今後の皆様の活躍を期待しています。

「頑張れっ! 出会うことのないヒーロー達!」

教務課主査 竹ノ内 創 (駿東伊豆消防本部から派遣)

実践的大規模災害対応講習（第5回）

～大規模災害に立ち向かうために～

令和5年2月8日（水）から2月10日（金）まで、「消防職員特別教育実践的大規模災害対応講習」を実施し、県内15消防本部（局）から19人が参加しました。

本講習では、甚大な被害が危惧されている南海トラフ地震や土砂災害等の自然災害、大規模イベント会場等でのテロ災害など、様々な大規模災害における対応能力の向上を図ることを目的として、大規模災害で活動された講師による座学や、図上訓練及び実科訓練で大規模災害対応に必要な知識と技術の習得に努めました。



受講学生



テロ災害・多数傷病者対応での現場指揮



大規模災害図上訓練



土砂災害対応



テロ災害・多数傷病者対応

（担当教官から）

本講習のカリキュラムは、初日に実災害の事例紹介による知識と技術の習得、2日目に静岡県の緊急消防援助隊応援援計画の理解及び図上訓練における習得した知識の活用、最終日に救急科合同の136人でのテロ災害・多数傷病者対応訓練における現場指揮要領の習得と、段階を踏んで対応能力を向上させていく構成としました。

対応困難な訓練想定の中、学生は活発な意見交換を行い、互いの知識を集約して対応していました。3日間という短い期間ではありましたが、互いに助け合い、協力して強い絆で結ばれたと感じています。今後も情報共有をして互いに高め合っていくことを期待しています。

教務課主査 埴淵 茂樹（浜松市消防局から派遣）

消大レポート 消防大学校幹部科（第71期）

令和4年10月17日（月）から12月2日（金）まで、消防大学校の幹部科（第71期）に入校しました。

消防大学校は、総務省消防庁が設置する国の機関で、消防関係者に対し消防防災に関する高度な教育を行います。

幹部科では、消防行政全般に関する全国的な動向や消防関係法規、実務研究など幹部職員として組織運営に必要な幅広い知識を学びます。

また、現場指揮能力を養うため、様々な災害現場を想定したシミュレーションや多くの人員や車両を用いた実践的な訓練も行いました。



幹部科第71期



多数傷病者対応指揮訓練



指揮シミュレーション訓練



消防大学校（宿泊棟）

この教育では、新たな知見を学ぶとともに過去の災害の実態や教訓、現在の社会情勢などから、将来自らが属する地域の消防には何が必要か自分で考えることが求められました。

また、全国から集まった同期生との交流を通じて、様々な地域事情や新たな視点を知ることができ、寮生活から得られる効果を実感しました。

この消防大学校での出会いと学びを、所属や静岡県消防学校に入校される方に少しでも還元できるよう努めて参ります。

教務課主査 吉瀬 大介（富士山南東消防本部から派遣）

消防大学校レポート

～全ては国民のために～

Fire and Disaster Management College



FDMC

Fire Suppression Course 111th

感謝 From October 26 - December 15 2022

警防科第 111 期 R4. 10. 26～12. 15



危険物火災対応訓練



現場指揮訓練



小隊指揮訓練



全国から集まったかけがえのない仲間

警防科第 111 期を担当していただいた教官の支援、さらには 48 人の同志で切磋琢磨したことで、充実した学校生活を送れたことを実感しています。所属、学校では、自分自身がリーダーシップを取り学校教育、所属での人材育成をしていかななくてはならないという責務がありますが、消防大学校で学んだことに自信を持ち、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

昨今のコロナ禍で人と人の繋がりが薄れ、対話や会話を通してのコミュニケーションの場が少なくなり、消防にとって一番重要なチームワークの構築が難しくなっているかと思えます。しかし、私たちはそんな中、48 人+教官方という大きな絆が生まれ、この大きな財産を新たなバックグラウンドとして、地域住民の生命及び財産を守るという崇高な使命をしっかりと果していく次第であります。

また消防大学校に入校のできる消防吏員数は全国で 1 % 未満という場所で教育を受けられたこと、業務多忙のなか快く送り出していただいた消防学校職員の皆様及び、所属先である志太消防本部には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

教務課主査 望月 竜之介（志太消防本部から派遣）

教官紹介〔谷澤教官・高橋教官〕



谷澤教官



高橋教官



本校の教官は各消防本部から派遣された消防職員に加え、県職員2人がその任に就いています。谷澤教官は、広聴広報課から異動して今年度3年目、高橋教官は農芸振興課からの異動で1年目となっています。

～高倉校長と教官との面談から～

校) 教官としての苦労や良かった点はありますか。

谷) 人が成長していく瞬間に立ち会えたことです。例えば、初任科生は、最初は組織的な行動ができず、訓練準備にも時間を要しますが、次第に団結や役割分担を学び、短時間で出来るようになります。学生が、「消防人」へ成長する過程に携われて良かったです。また、この3年間は新型コロナウイルスの影響で様々な制限がありましたが、それが機会となって、新しい事に取り組むことができました。

高) 今まで経験してきた職場と全く違う職場であり、消防活動のための体力・技術・知識がないため、まず、いろいろな事を知り吸収し、自分の力のある程度の水準まで上げていくことに苦労しています。また、県の職場と違い、教官の連携の強さには驚くとともに、学ぶことができ、良かったと思います。

校) 派遣教官の中での県職員教官の位置付けをどのように思っていますか。

谷) 派遣教官の事務的なフォローを行うほか、総務課との橋渡し役を担うことにより、広く学校運営が円滑に進むよう意識するのが役目だと考えています。

高) 県システムを使った派遣教官への事務処理に関する支援と、総務課との連携が役割と思っています。

校) プライベートで何か趣味はお持ちですか。

谷) 子どもが小さいので、休日は公園へ連れて行き、一緒に遊んで楽しんでいます。

高) 社会人になって県内の方々とドラゴンボートを始め、コロナ禍の今は妻とウォーキングをしています。

高倉校長から一言

谷澤、高橋、両教官とも県行政職。消防という専門性が問われる環境の中で教官という難しい職責を担ってくれています。ことに行政職としての強みを活かしながら、優秀な消防士たる派遣教官たちから様々なことを吸収しようとする姿に改めて頼もしさを感じています。

2月、ロシアのウクライナ侵攻開始から1年です。日本でも国防力をあげようとする政府の動向も併せて、「国際紛争が人ごとではない。」と感じる人が増えているのではないのでしょうか。

身近では、前年に起きた台風による自然災害、一昨年違法盛り土に起因する土砂災害、足かけ3年となるコロナウイルスの健康被害と私たちの生活を脅かす想定外の事象が続いています。

こうした中、それらの災害現場、救急医療の現場で奮闘される消防士の皆さんには畏敬の念を禁じ得ませんが、人間同士の争いによる災害は是非とも回避してほしいものです。ウクライナの市街地が炎や煙に包まれる光景の中に、消防士の後ろ姿を見る都度、ここ消防学校で訓練を受ける消防士の皆さんの役割の一旦を感じますが、日本で、そういう光景は見たくありません。

2023年、コロナの感染症分類も変わろうとする中、私たちの生活は、社会・経済活動も一層活発になる新たなフェーズに入ります。今より穏やかに過ごしたいですね。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

